

福岡県飯塚市幸袋 築120年古民家『聴福庵』 2017年のあゆみ⑥

第27号 2017年9月4日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

今回の聴福庵

8月23日～29日まで、聴福庵に滞在していました。

日中は照りつける暑さに体力を奪われますが、夕方になると鈴虫が合唱をはじめ、その音色が心地よく、気づけば秋が近いことを教えてくれます。今回も様々な機会に恵まれ、そして多く方に来庵・宿泊して頂きました。

2017年8月23日（水）

移動日、掃除

夕方、羽田空港から福岡空港へ。

今回の滞在中では、お客様が多く来庵・宿泊もあるため拭き掃除、掃き掃除を行いお迎えの準備をしました。

2017年8月24日（木）

厨房漆喰塗り、聴福庵掃除、新宿せいが子ども園ご一行様宿泊

これまでは業務用のステンレス板が壁一面に敷き詰められていましたが、左官の小林さんに下処理をして頂いたところに、漆喰塗りを施していきました。また、新宿せいが子ども園の藤森先生方に来庵頂き、嘉穂劇場や福岡農園の見学、聴福庵へご宿泊して頂きました。



床の間に菅原道真公の掛け軸



近隣の天満神社

2017年8月25日(金)

神社掃除、天神様勉強会、井戸掘り

朝、天神祭に向けて近隣の神社の天満宮の掃除を奉納しました。そして、第1回となる天神祭では、新宿せいが子ども園藤森園長に「子どもにとっての学問とは」をテーマに講演して頂きました。午後からは新宿せいが子ども園の先生方と一緒に井戸掘りを行いました。夜は栄町保育園の伊藤先生に来庵頂き、ご宿泊して頂きました。



トラックで風呂桶を運び出します！

2017年8月26日(土)

風呂桶搬入、煤竹磨き、井戸掘り

八女市にある松延工芸へ依頼していた風呂桶を取りに行き、聴福庵へ搬入。伊藤先生には煤竹磨きや水道管の修理など、ゲストではなくスタッフとして活躍して頂きました。

2017年8月27日(日)

保育園の先生方来庵・宿泊

熊本県 新明保育園 前田様、茨城県 大宝保育園 山内様、神奈川県 横浜六ッ川保育園 川辺様に来庵頂きご宿泊もして頂きました。日ごろの感謝を込め、夕食を振る舞いました。



漆喰塗り一朝の光の陰影—

2017年8月28日(月)

井戸掘り、天井煤竹作業

朝、先生方をお見送りし、井戸掘りを続行。井戸から湧き出る水量も増え、ポンプを使用し水を出しながらの作業のため難航。井戸屋の職人さんに見守られながらの作業が続きました。また、天井の煤竹作業も同時に進めていきました。



湧き出る水の中作業が続きます

2017年8月29日(火)

井戸掘り、聴福庵掃除

引き続き、井戸を掘り進めていきます。午後からはついに井戸屋の職人さん井戸へ入り、作業に当たって頂きました。

天神祭



寺子屋の雰囲気勉強会を行いました

昨年4月より御縁あって郷里へのご恩返しとして子どもたちに先祖の祈りや智慧が伝承していけるようにと古民家の甦生に取り組み日本の伝統的な家や暮らしを通して一つ一つ復古創新し学び直しております。

今回は、その暮らしの甦生の第一回勉強会として天神祭を深めてみたいと思います。

なぜ天神祭なのかというと、この聴福庵の地域の氏神様が天満宮である由縁があるからです。古来より寺小屋をはじめ日本の私塾ではこの天神様をお祀りし子どもを見守り学問が成就するようにと祈りを奉げてきました。改めて菅原道真公の遺徳を偲び、その生き方や歩みを通して今の私たちに欠かせない先祖の智慧の伝承を感じていただければと思います。

また天神祭を深めるにあたり、当日は菅原道真公に因んだものをたくさんご用意しております。改めて暮らしの中に息づく活きた学問としての古民家、また伝統の価値、伝承の意味を子どもたちのためにも一緒に楽しく、豊かに味わう機会になることを祈念しております。

聴福庵初代当主 野見山 広明



えびら梅酒・梅ジュース

えびら梅酒・梅ジュース

高野山にある梅の古木からいただいた「えびらという品種」の珍しい梅を聴福庵で梅酒にしました。梅酒は、全部で五種類ご用意しており自然酒、焼酎、ブランデー、また和三盆を使った健康によく美味しいものに仕上がっています。



80年物の梅干し炊き込みご飯

80年物の梅干し炊き込みご飯

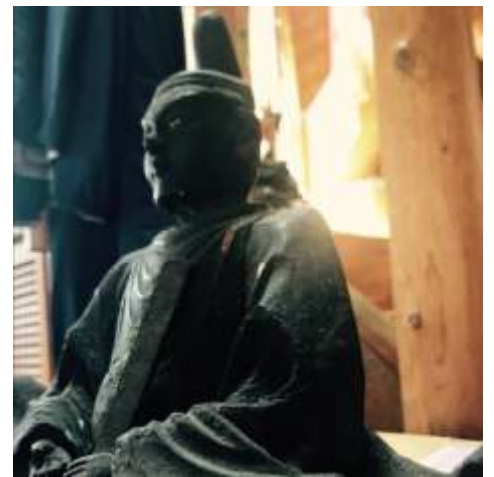
現在96歳のおばあちゃんが16歳の時に嫁いだ時のお祝いで漬けた80年物の梅干しを使った梅の炊き込みご飯です。



梅ヶ枝餅

梅ヶ枝餅（備長炭焼き）

大宰府天満宮参道にある「やす竹の梅ヶ枝餅」を備長炭でじっくり焼き上げました。





鮎の塩焼き



割った竹を器に利用！

聴福庵を通して感じること

「同じ釜の飯を食べる！」文字通り、竈で炊いたご飯と一緒に食べ、談笑し、翌朝は一宿一飯の恩義ということで、掃除や井戸を掘り進めていきました。

日頃、お世話になっている先生方に来庵頂き、一緒に食事を楽しみ、一緒に聴福庵で過ごす中で思い出がまた一つ増えました。

普段私たちが園にお邪魔することが多く、もちろん先生方に来社頂くこともあります。こうして聴福庵を見て頂くことは今のカグヤの全てを見て頂いているようでもあります。

新宿のオフィスで行っていることをそのまま聴福庵で行っているからこそ、クルーにとって食事のおもてなしも、日ごろ行っていることそのものでもあるのだと感じています。

そして、今回藤森先生にお越し頂き、「子どもにとっての学問」とは、と題して講演を行って頂きました。

聴福庵は子どもたちの伝承施設としたい！との思いから昨年4月から取り組みがはじまりました。聴福庵の近くにある神社には、天満様が祀られ、私たちにとって切っても切れない存在でもあるのです。

そして、25日は菅原道真公の誕生日と薨去とした日で、8月25日に藤森先生をお呼びし近親者のみで第1回となる勉強会を開催しました。

学問の神様として今なお慕われる道真公に見守られながら、聴福庵にとって歴史的な第一歩がはじまったと感じています。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)

●過去のバックナンバー

第24号

臥竜塾年間講座③

第25号

築120年古民家『聴福庵』⑤

第26号

GTサミット2017

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。

新宿せいが子ども園 園長 藤森 平司氏

歳を取ってから思ってきたことだが、もともと建築の学校を卒業し、小学校に勤めた。その時に考えることがあった。30歳くらいで教員を辞め、その時元々は教員をするつもりはなかったが、教員をするにしたがって幼児乳児の大事さ、最近は胎児から大事だと思っている。担任をしていた頃のお父さん達がお別れ会をしてくれ、「何でやめるのか」を聞かれ「向いていないから」と言ったらお父さんに怒られた。「周りがいい先生と言っているのに向いていないというのは失礼だ!」と怒られた。それ以来、藤森先生が立派ですと言われたときは、心では「そうではないのに」と言いたいが、そうなるように精進しますという言い方に変えた。奉られるのは好きではない。まず幼児教育に関係していることもあるが私は建築から入ってきている。今、よかったと思うのが自分は勉強家ではない。勉強が好きでないことがよかった。いろいろな書物を読むことが学ぶことだとしたら、保育では邪魔になる。なぜなら子どもが対象なので子ども自身を見て考えるべき。そうでないと刷り込みを持ってしまう。勉強家ではなかったので保育の勉強はほとんどしていない。それよりも子ども自身を見ること。教育学の本を読むよりも子どもが主人公の本や映画を観ていた。子ども自身を見つめようと思っていた。保育の勉強ではなく、人間そのものを見よう。人間とは何かを見るようにしている。そういう中で私は人間の進化に興味を持っている。今わかっている範囲で、哺乳類が進化していく中で枝分かれし人族、その手前に枝分かれしたのが原人やネアンデルタール人という旧人。これはそれぞれに進化した。ホモ属も一つの種類。フローレス原人がいたり、同時にいた時期もあった。私たちの祖先は非常に弱く、ネアンデルタール人は強く、洞窟で発見されるだいたいネアンデルタール人の絵で知恵も優れていた。アジアには原人たちがいた。地球上にいたが何故かわからないが、人族の中でホモサピエンス以外は全滅した。そして、あまり交配もしていない、生き残ったのがホモサピエンスと言われている。生き延びている力を子どもに伝えることが役目だと思っている。いろいろな生物は全滅し、絶滅危惧種もいるが、ホモサピエンスが生き残っている。進化的に見るとそろそろ、ホモサピエンスがいなくなる兆候が出始めている。それは生き延びてきた力が失われつつあるので、それを取り戻したい。それを持っているのは日本人ではないかと思っている。その資質を一番受け継いでいると思っている。簡単に言うとNHKで放映された『人類の起源』があった。地球上にトベ火山が噴火して覆ったときに、気温がだいぶ下がり食べ物がなくなり人が死んでいった。食べ物を探しに行く動画が放映され、食べ物を見つけた。これは黒曜石という矢じりがどこで発見されたかで人の動きが分かる。中央アフリカから出かけて食べ物を見つけて、採ろうとすると元から住んでいる人たちが「何しに来た!これは俺たちのものだ!」と戦い、そうするとどちらかが勝つ。黒曜石を見ると勝った方はそこで滅びている。生き延びたのは「食べ物を探しに来たんだ」「そうか半分ずつ分けよう」とした人たちは次と一緒に探しに行き、生き延びたと言われている。ホモサピエンスの遺伝子には分け合うという遺伝子を持っていると言われている。次にNHKで『病の起源』について放映され、今、世界中を覆っているのがうつ病。その起源を調べると人間が農耕民族になったときに自分だけで所有しようとし始めるとうつ病がはじまったと言われている。世界の中で今でも平等に獲物を分け与えている民族にうつはないと言われている。アメリカで研究され、最後にもしうつ病になり

たくなかったら、ほんの少しでも人のために自分を使うと、うつにならないと提案されている。いい行為、立派な行為ではなく、もともと持っている遺伝子。赤ちゃんはもともと公平性を持って生まれてくる。

本題に入るがそういう時に人間が持っている遺伝子だけで生きていくかという伝えていかないといけない。まさか「協力が大事ですよ！」と伝えるわけではない。昔どう伝えたかというところが学問の起源だと思っている。これは私が考えていることだが狩猟民族で大事なものは獲物を効果的に多く採らないといけない。その採り方を次の世代に伝えないといけない。そのために学問が生まれたと思う。一番の伝え方は子どもたちが大人が狩りをしていることを見て学ぶことだと思っている。学ぶという「学」は真似するという意味。「まねぶ」が学ぶになった。旧字の「學」は「x」と書く。右手と左手で真似するという字を表している。今の研究では模倣は人間しかしないと言われている。サルも真似はするが意味のない真似、例えば舌を出したら舌を出すのは人間だけと言われている。人間は真似ることで学んだらう。人が真似をするのは心理学では3歳児からと言われていた。真似をすることで学習すると言われ、ピアジェは真似をすることを学習して3、4歳で学んでいくと言っていたが、ある人は赤ちゃんが生まれ舌を出したら赤ちゃんも舌を出したときに0でもやるじゃないかと思った。新生児模倣といい、真似はすごい。私の孫の赤ちゃんは眉間にしわを寄せる。「これ、じーじのまね！」と家族が言った。単純に不思議なこと。真似るためにはその部位がどこにあるかとか、どこを動かせば同じ顔になるかをどう学んだか。鏡を見ているわけではないのに何で学んだか。ロボットに真似させることは難しい行為。真似るのは意思をもってなくて生まれつきなるのではないと言われていた。原始反射がいくつか見つかった。生まれたての赤ちゃんを抱きかかえると足をバタバタして原始歩行と言って歩こうとする。生理的微笑と言ってニコッとする。笑いかけているのはなくて自然と筋肉が動いて、意思はないけどかわいってもらおうと自然と動く行為だとずっと思われていた。私の書いた本にも意思をもって笑いかけているわけではないけど、親や養育者の愛を喚起するためにそうしないと滅びてしまったからと書いたが、最近の研究で驚愕したことは胎児の3Dを見ると胎内の赤ちゃんもニコッとする。一体誰に向かってお腹の中で愛を喚起しているのか。お母さんが舌を出すと舌を胎内で出しているのが不思議。研究が始まったばかりだが、生まれた後の練習をしているのではないかとされている、練習をするということは意思を持っているのではないか、胎内で自発的に行動しているのではないか。意思をもって選択し大人を使いこなしているのではないか。自分でできないから大人を上回って仕掛けているのではないかと分かってきている。そうやって真似をすることは、人類の特徴のようにまねぶことが学問。勉強することの基本は真似をすること。大人の狩りを真似し自分の知識を増やしている。学問の問うとは何か。大昔に大人から狩りや稲の育て方を学んだけれども、人間の力でどうにもならないのは自然災害。その時に祈祷師や占い師が天に問うのが元々の学問の起源。学問という字が現れたのが易経の中で出てくると言われている。野見山さんから「学問について話してくれ！」と言われたときに因縁を感じた。毎日ブログを書いているのだが、ブログを始めたのが8月28日でまる12年になる。この13年間一度も抜けていない。その第1回の時にブログで、学問のことに関係している。よくあるブログ、例えば真央ちゃんも人気のあるブログだが、誰かが見ると課金されるが私のはそうではなく、課金はされないが検索ができる。13年続く中で気にしたのは炎上しないかどうか。見られても課金されないので、できるだけ見られないようにする。映画を観て書きたいなと思っても、スパイダーマンのことを書いたら、誰が何を言うかわからないので抽象的な書き方を。言葉に気を付けていて、運動論になるようなことは避けている。しばらく易経のことを連載して

いた時期があったが、最近中国の広州市から見学があった。インテリでお土産が易経の校本だった。易経の中の道德経の掛け軸を頂いた。易経の中に学問について書かれているが、「学」はまず集めること、それは色々な知識や経験、自分よりも経験者から学ぶ。「問」は問うことと書いてあって質問すると同時に自分に問うこと。私の保育園はせいが保育園というが一つは論語の中に「吾、日に我が身を三省す」と書いてある。「我」は自分が自分の「我」もある。もう一つは「我」を省くというのがある。易経の中では自分に問うことがある。いろいろなことを見て学んで、その次は人に問うことだと言われている。易経の中には人の成長を竜に例えている。一生懸命知識を集める時は潜龍と書かれている。将来立つだろうという意味がある。もう一つは中学生を集めて塾をしていますが臥竜塾と名付けていて、今もそれを続けている。男性の若い職員を集めて毎週勉強している。今日も3人連れてきた。私が話をする中で学問、問うこと、潜龍の次は見龍と書く。師を見つけて学び、そこへ行くには学問が必要。師匠に問うことが学問には必要という話をし、質問をしてほしいと事前に伝えていた。臥竜塾で「100年後の保育はどうなっているか」と質問をした。塾と名付けたのは松下村塾というところで学んだ人が明治政府を立ち上げたように、質問されたらきちんと答えるようにしている。塾生に100年後の保育はどうなっているかを問い、100年後の保育について私の意見を言う。100年後を考える時に、100年前を考えどこが100年後も一緒か考える。100年前に赤ちゃんがハイハイして立ち上がった、これは100年後も変わらないというように変わらないこととそのために今何が必要かを問答した。

森口：環境が人を変えることを言われましたが、人はどういう気持ちでいないといけないのですか？

藤森：今晚、明日、明後日予定が入るので予測してブログを書いた。人は遺伝なのか環境なのかについて書いた。教育が生まれつきと言われたら成果はない。環境がそうしたと言ったら効果がない。野見山さんからある動画を頂いた。男の子は車などが好きで女の子は人形遊びが好き。動画は男の子の赤ちゃんに女の子の格好をさせたら、ベビーシッターはほらほらと渡す玩具が女の子のものを渡している。恰好が違ふとそれで遊び始める。刷り込みは大人が作っているのではないかと思った。でも生まれつきもあるというのはTVでマツコ・デラックスなどは子どものころから車に興味なかったと言っていた。男の孫を見て車が好きと言っていたが、生まれつきもあるかなと思うが、兄弟でも上の子だからと育てられたり、あとから育てられることだと思う。それによって身に付ける特性は全く同じではなく、役割があり社会を形成する中で必要。幼児教育で必要な環境は持って生まれたものがある。環境によって伸ばすか、社会に貢献していくことが教育だと思っている。易経に学問とはという文章があるが、「学」は知識を集め「問」は問う。かんという字があるが心を広く持つと書かれている。仁を広めていくことと書かれ世の中に広めて初めて学問だと書かれている。環境が成し得ることは、持って生まれたものを社会に貢献して環境に変えていくこと。今の説ではどちらもということがある。環境は教育によって作られるが、英語で言うとエデュケーションを漢字で当てはめたことが間違いだが、もともと持っているものを引き出すと言う意味。よりよく引き出すことが教育。教育の教えるは棒をもって叩き込んで。今はもともと持っていると考えられている。人を助ける力などを上手に引

き出すことと言われ、環境を用意して社会に貢献していくこと。そのためには生まれつきもあるかもしれないが、環境を用意していくことが人類に必要なことだと思っている。

柿崎：食からお聞きしたいが古民家で食事をして雰囲気もあって、食事をする雰囲気、バーでお酒を呑むとかもそうだが新宿に今住んでいるが、どうやって食ということを学んでいけばいいか？

藤森：彼はうちの園で調理をしているが、私はホモサピエンスが中央アフリカから出たとき、肌は黒かったがヨーロッパへ行ったりしたらその地域の気候風土に適合した。肌の違いによる一番は紫外線の量による。多すぎても少なすぎてもよくない。日本でやたらと紫外線を恐れている人がいたが、あれはオーストラリアで皮膚がんが出たがそこから世界中に広がった。オーストラリアに住むのに適したのはアボリジニとか先住民族の人たち。それが西洋人がオーストラリアを占領したので、それに適用できなかった。紫外線と肌の色がちょうどいいようになっている。食べ物でもその地域で採れたものを食べて過ごす。夏に採れる野菜は体を冷やすようになっている。基本的には日本で採れたもの、旬のものを食べる。次に歯だが臼歯と門歯があるが、歯の割合がその人の体で摂取する割合とい、

体もちゃんとそうできているということを見直している。歯や体ができているものを取り入れる。日本は日本の行事もあるので見直すか考える。日本の文化によって出し方がある。外国語にもなっている、おもてなし。おもてなしは配膳の仕方にも表れる。配膳の仕方はルールではなく食べ手への配慮が置き方に出すおもいやり、自分がその後食べやすいようにおいてもいい。出す側の思いやりで会ってご飯が左で味噌汁が左にあるのは右利きの人が想定されている。ルールというのは相手への思いやりなので食文化としてできてきた。素材だけでなく出し方も日本では大事してきているのが食の環境。

西村：昔は生活をよくするために学問をしていたのかなと思うがどうでしょうか。

藤森：一番の課題は自分たちの遺伝子を次に残していくことなので利己的。遺伝子を遺すためだが、人類は生きていくために、遺伝子を遺すためだけではない行為もしていく。遺伝子は利己的だけど自分たちのためだけにやっていたら残せないと知った。人類は広く広めるのは大きな意味で貢献することが広げることという意味。遺す方法は様々な分野や職業、性格も必要。ある時に学問をして大学教授のように学問をしたが、それでは何か足りなくなり滅びる。いろいろな特性を持たせ、障がいや女性にも役割があり学問というメッセージをもって活かしあえること。問いに答えるかという孔子のスタイル。弟子が質問したら「子曰く」と答える。何でもかと言うと、人の生き方が何であるかを考えるため。学問は人がどう生きべきかを考える。保育は人の生きる道だと思っている。人に貢献することで私の園の理念は「共生と貢献」。そういう人材を育てていこうとしている。最後に時間がないが私が奉られるのが好きではないのは、貢献する力は大きければ大きいほど相手は気づかないものだと私は思っている。おかげさまで、助かりましたと言われると、まだまだ私の力は小さいのだと思う。これは易経にあるように、一番恩恵を被っているのは太陽だが、太陽は

そう思わないのは愛が大きいからと言うのがある。誰から何をされたではなく、大きな貢献をしたいと思っている。それにはやはり学問を積まないといけないし、学んだことを広げていくことだと思っている。知識を集め定着し、仁の心をもって広めていくことと易経に書かれていること。学問についてと言うことでお話をしました。ありがとうございました。

以上

本稿は、2017年8月25日に行われた『聴福庵』での天神祭りの講演の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)

参考

臥竜塾ブログ 2005年8月29日 [始めるにあたって](#)